

第1回鹿児島県地方創生有識者懇話会（鹿児島地区） 議事概要

1 開催日時

平成27年9月11日（金） 14:00～16:00

2 開催場所

ホテルウェルビューかごしま 2階「潮騒」

3 議事概要

(1) 知事あいさつ

(2) 委員紹介

(3) 委員長指名

- ・宮廻委員を委員長に選任

(4) 本県概況と地方創生の進め方等説明

- ・県勢の概要，地方創生における国・本県の状況等について説明（資料1～2）

(5) 意見交換

<主な意見>

- ・若い世代をいかに県内に定着させるかが1つの大きな目標。学校教育において，地方で生きていくという価値観を大切にすべきではないか。
- ・民間がプレーヤーであることを念頭においた戦略作りが必要。観念的でなく実効性のあるプロジェクトを練り上げるという方向には賛同。
- ・安心・安全で産み育てやすい社会づくりや，保育士・保育教諭の魅力発信
・人材確保の取組が必要。
- ・市町村と調整しながら戦略を作るべき。起業し，雇用を創り出す若い人の発想を取り入れるのも1つである。
- ・若者を出さない，戻す，引きつけるということが大事。
- ・産科・小児科医師不足問題解決には，女性医師のパートナーである男性医師の子育て参加・理解促進の取組が必要。
- ・地方に雇用があるということが大事。6次産業化など農林水産畜産業は地域経済にプラス面が大きい。いかに多くのアイデアを出せるかが問われる。
- ・鹿児島県は一人暮らしの高齢者が日本一多いので，社会的孤立という視点で考えることが必要。自治体はプランニング力をつけなければならない。

- ・ PPP, PFI 等, 民間活力をもっと取り入れるべき。ある程度集中と選択が必要であり, その道筋をつけて戦略を作ることが必要。
- ・ 生き方は多様化している。世の中の価値観の変化に対応した施策, 県の実情を生かした施策を具体的に打ち出してほしい。
- ・ 地域を経営できるような人材の育成や小学校区単位の活動が必要。子ども, やる気, 財源の生産性が上がるよう検討すべき。
- ・ 桜島の噴火レベルが下がっても旅行者の予約がどんどん取り消しになっている。報道機関は桜島等の報道のあり方をもう少し考えてほしい。
- ・ 観光地でも人手不足。地域の雇用を守るためには子育て中の女性が働ける環境づくりが必要。インバウンドの問題は鹿児島空港の発着時間延長などを検討することが必要。
- ・ 経済対策, 子育て支援を行い, 結婚できると思える環境づくりを市町村の垣根を越えて広域的に行ってほしい。
- ・ 若い人を呼び込む施策, 子育て支援施策, 起業家を目指す人たちへの支援が必要。
- ・ 人材育成が大事。Uターン, 新規就農の若者へのサポートの観点も重要。
- ・ Uターン農業者や若手農業者が, 色々な支援事業を知る機会がない。農家と行政につながりができるような仕組み作りを行ってほしい。
- ・ 鹿児島の自然資源を生かすと, いずれ観光に結びつく。県に存在する膨大な量の標本類含め, 情報の活用を考えるべき。
- ・ 「学校づくり」を考えてほしい。中学校区は守るべき。複式学級, 海洋教育のメリットを生かした, 鹿児島らしい教育の形を模索できるとよい。
- ・ 県に豊富に存在するエネルギー資源を上手く活用すべき。
- ・ 県と市町村との連携, 情報共有を図ってほしい。
- ・ 地域の活性化, 雇用創出, 小規模事業者の持続的発展に向けた取組が必要。

(6) その他

- ・ 今後の懇話会の進め方やスケジュール案について説明 (資料3)
- ・ 本県の地方創生の取組 (プロジェクトなど) への提案を委員に依頼 (資料4)